

研究テーマ

僕の住む駅前地区
の夏祭り
福崎駅前道分稻荷祭り
について



1 年 2 組 18 番

氏名 松下 磨生

○ 「僕の住む駅前地区の夏祭り
福崎駅前道分稲荷祭りについて。」

○はじめに ・僕の住む駅前地区では毎年7月25日に
盛大な夏祭りが幸わたり行われる。
駅前道分稲神社を祀るものである。
午前中は駅前子供会が子供みこしを引いて
地区内をねりまわる。
ところが、その道分稲荷について僕は何も知らない
いつ、誰が、何の為に作り何を祀っているのか？
田畑が少ない駅前地区だから五穀豊饒を
願っているとは思えない。やはり、商店が多かった
過去の様子から考えて商売繁盛を祈願している
のではないかな。

○1、 稲荷とは

「稲荷」の語源は「稲生る」からの転訛で、そこから
ウカミカマ神は「百鬼の首座にある稲魂（穀霊）」とも
いわれる。

ウカミタマ神とは「お稲荷さん」の祭神である。『古事記』
では、宇迦え御魂神『日本書紀』では、倉稲魂神
とも書かれている

その性格については、『日本書紀』に「イナザキ命と

イザナミ命が国生みの時に飢えを感じてウカノミカタマ神
生んだ」とあるので、本来が食物をつかさどる神様である
また、一般に、お稲荷さんといえはキツネというイメージが強く
キツネを神様と誤解することも多いようだが、あくまでも
稲荷神のお使いというのが正確な立場である。

山に住む獣であるキツネは、古くから山の神あるいは
その化身と考えられていた。古代信仰の山の神は
春に山を下って、里に降りて田の神となり秋の収穫が
終わると山に帰ると考えられていた。

一方、キツネは、冬から秋にかけて里に降りてきて
穀物を食べ、荒らすネズミを捕って食べたりする。

そこからキツネは、古くから民間信仰のなかで
農耕信仰の対象となる山の神と深い関係にある霊獣
(神の使い)として崇められていた。

つまり日本人が主食とする米作り、稲作文化の中で
お稲荷さんとキツネが結びついた。それによってウカシタ神
(稲荷神)はとても庶民的な神様になる

2 「道分稲荷」に行ってみた。

福崎駅から南西に3分程歩いたところにある

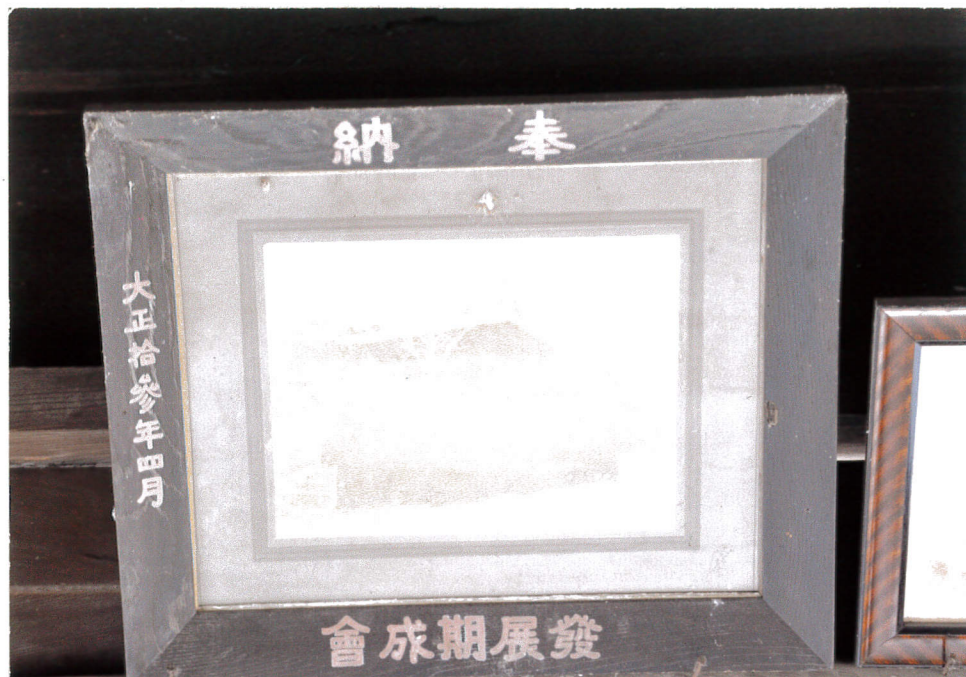
その名の通り、道を二つに分けるVの字型の地形に
立地している神社である

神社向かいにある藤田理容店のご主人が管理
されているようで扉を開け、提灯を点して
下った。



毎年、夏祭りに参加しているし、何より左写真の向かって右側の通りは、僕が保育所の頃から小学6年生まで、約12年間歩き続けた通学路なのだが、改めてこの神社を隅々まで初めて見せてもらった。

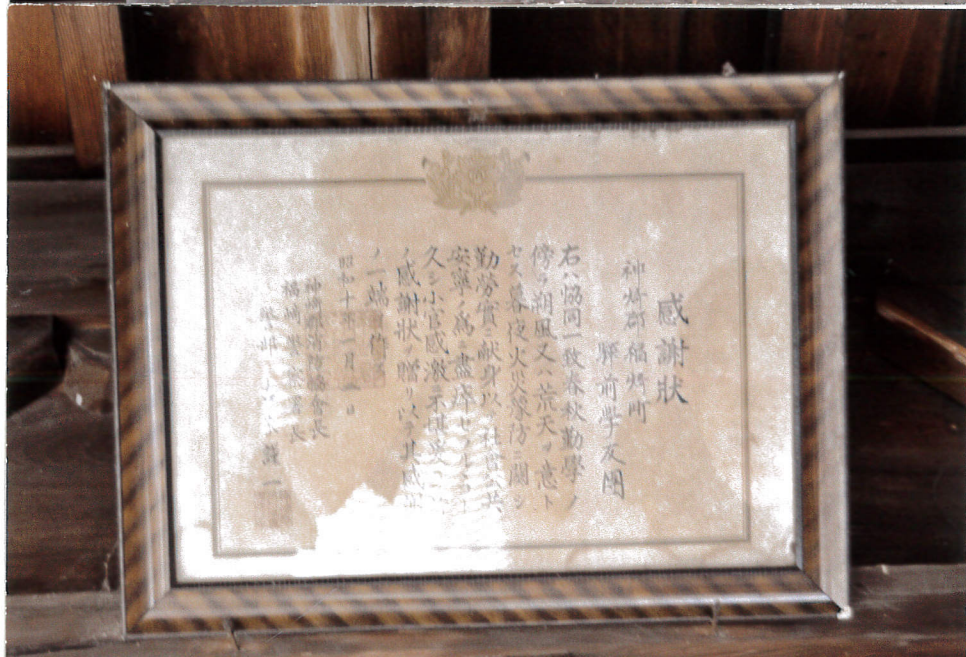
赤い鳥居を2つくぐると早速本殿という小さな神社である。さい銭箱におさい銭を入れて手を合わせた後、本殿に上がらせてもらう。よく見ると、神棚の屋根は本殿のものとは、別になっぴりとても古いもののように見える。さらに本殿の板場は、わずか2畳程の場所であるが、頭とにいくつか客員が飾られている。古くて読み取れないものがあるが調査してみる。



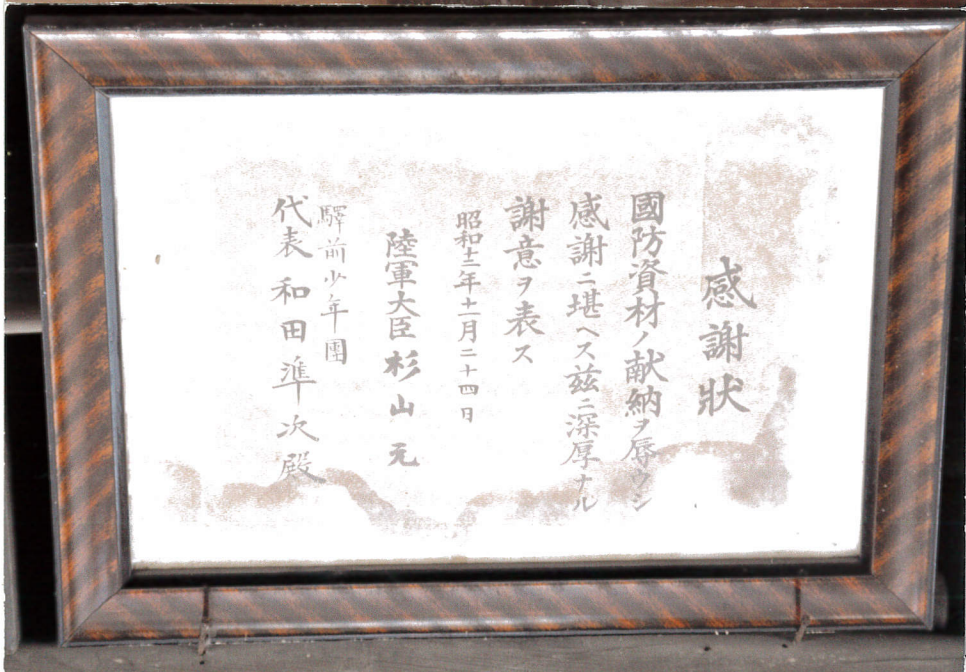
左上の写真は、
大正13年4月奉納
発展期成会とある。

発展期生会とは、
日本最初の近代的労働
組合である。鉄工組合の
組織母体であるが
期成会そのものは
労働組合ではなく
労働運動の宣伝
啓蒙団体である

道分柏荷をバックにした
集合写と思われる

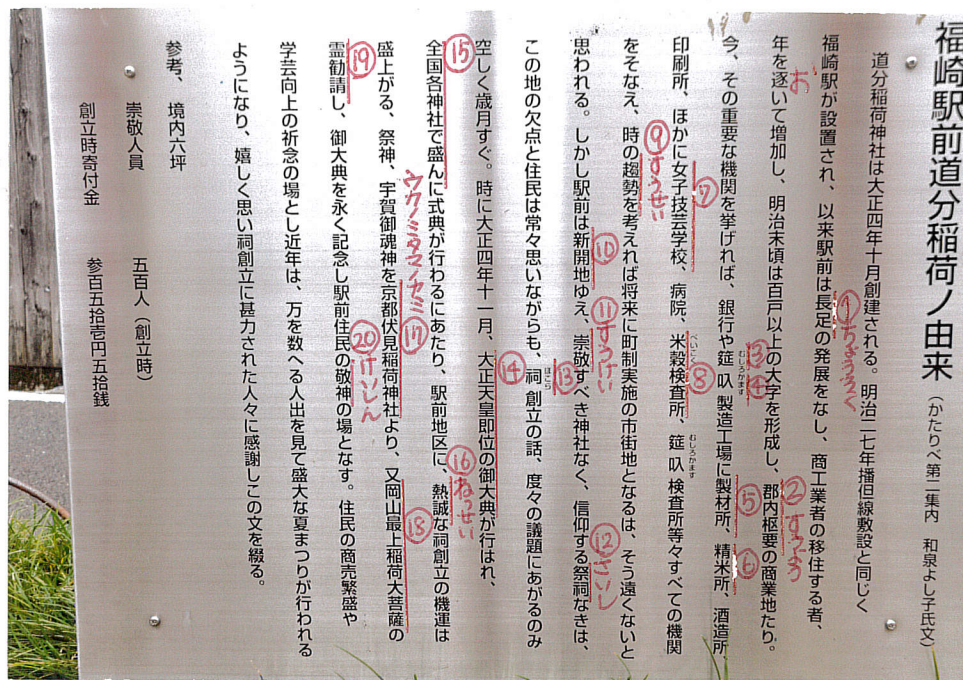


左中の写真は、
駅前学友団の感謝状
で神崎郡消防協会長
で福崎警察長の
警部さんから昭和
10年1月に送られている



左下の写真も感謝状
で陸軍大臣より駅前
少年団に送られている
第二次大戦下は何を
献納したのだろうか？
道分柏の本殿にこれが
飾られているという事は、
公民館の要素もあった
のだろうか？

3か所にリベ 和泉さんの看板を検証する
 外の2本の鳥居の間に興味深い看板を見つける
 図書室で原本を貸りて解説してみた



わかり易く読めように年表にしてみた。数字は注釈 次ページに。

和暦			西暦	
明治	前期		1866	
			?	
			1889	
	27年 中期		1890	
			1894	7月26日播但鉄道開通。福田村に福崎駅が置かれる
			1904	
	45年 後期		1905	
			?	
			1912	この頃、駅前地域は百戸以上の地区形成
			(1912)	
大正	(元年)			
	3年	1914	第一次世界大戦勃発	
	4年	1915	10月道分稻荷創建 11月大正天皇即位	
	7年	1918	第一次世界大戦終戦	
	14年	1925	12月1日福崎村に町制が施行され福崎町(西地域)となる	
	15年	1926		
昭和	(元年)	(1926)		
	64年	1989		
平成	(元年)	(1989)		

- ①長足...物事が非常に早く進むこと
- ②郡内枢要...福崎駅(播但線)の中心となり大変繁栄していた。
- ③筵...藁やイグサの草で編んだ簡素な敷物、ござ。
- ④呷...穀物、塩、石炭などを入れるためのわらむしろの袋
- ⑤製材所...木材を製造・加工する事業所
- ⑥精米所...玄米を精白する機械が設置してある施設
- ⑦女子技芸学校...後の兵庫県立福崎高等学校
- ⑧米穀検査所...明治6年(1873年)の地租改正により米が税でなくなる
その為米の質が下がったため向上の為のもの
- ⑨趨勢...社会などの全体の流れ
- ⑩新開地...新たに開けた土地
- ⑪崇敬...あがめ、うやまう
- ⑫祭祀...神や祖先などをまつこと。祭り
- ⑬祠...神をまつる所
- ⑭大正天皇即位の御大典
天皇即位の儀礼(①前天皇の死後、ただちに後継者が即位「踐祚(せんそ)」
②天皇即位を国の内外に宣言する「即位式」
③新天皇がその年の新穀を神と共食する「大嘗祭(だいじょうさい)」
明治42年の登極令の制定で②③はす天皇の喪が明けた年の秋冬の間に続けて
行われることに決められ「御大典」という。
- ⑮全国各神社で盛ん...神社神道が皇室祭祀と結びつき国家神道と
なり、国民が現代人以上に天皇崇拜していたような時代
- ⑯熱誠...ひたむき真心
- ⑰京都伏見稻荷神社...現在は伏見稻荷大社。稲荷神社の
総本社で千本鳥居などが有名
- ⑱岡山最上稲荷大菩薩...最上稲荷はお寺でありながら
鳥居や大注連縄もある神仏習合の祭祀形式。法華経で
勧請したお稲荷さまなので「南無妙法蓮華経」とお唱えする
- ⑲靈勧請...神仏の分霊を他の場所に移まつること
- ⑳敬神...神を敬うこと

4 わからなかったことを聞き取り調査した。

稲荷神社を管理する藤田さんはそこに長く住まわれないようで

前駅前区町の日野さんを紹介していただいた。

神社の側で生まれ育ったということだが、高齢で記憶力が乏くなる

痛気だそうである。前々区長時代に稲荷夏祭りが開始されたということは聞くことができたが、前々区長もすでに亡くなっている

○おわりに

昭和57年に発行されたかたリベ第二集で、道分稲荷のことを綴られた和泉よしさんから直接資料を見せてもらい話を聞いた事は、前区長の日野さんは覚えていらした。民俗学とは、それを伝承していくことだそうだがそれには少し遅かった。大変残念な結果となったが今回調べてわかったことだけでも僕が駅前区民として次に伝承したい。

ちなみに今年の10月で道分稲荷倉庫建から丁度百年になる夏祭りの時にそういう話が全くなかったのが秋祭りに向けて現区長さんに話してみてもいいかもしれない。

<参考文献>

- *福崎ふるさとを語りつくす会「かたリベ第二集」
- *福崎西中64回生「福崎駅前活性化計画」(intergor.jp)
- *「歴史人」(inari.jp)
- *「伏見稲荷大社」(inati.jp)
- *「最上稲荷」(inari,ne.jp)